



介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

問 次の記述のうち、適切なものには○、誤っているものには×をつけ適切なものに修正しなさい。

<発達と老化の理解>

人間の成長と発達の基礎的理解

1. 成長は、主に発育に伴う変化のうち系列的、量的に増加する現象について表す。
2. 発達とは、総合的な成長であり、質的变化が安定してみられる場合を指す。
3. 発達において、遺伝による素質の役割を強調する考え方を生得説（成熟説）という。
4. 発達において、生育環境における経験の影響を重視する考え方を経験説（環境説）という。
5. 輻輳説とは、遺伝的要因と環境的要因がそれぞれ作用し、それらの総和によって発達は規定されるとする考え方である。
6. 身体的発達は、上から下（頭部から尾部）への方向性と、中心から外側（中枢部から末梢部）への方向性をとる。
7. 運動の発達は、精神的発達と相互に対応している。（身体的）
8. 運動の発達は、生後3か月ごろから首がすわる。
9. 運動の発達は、生後7か月ごろから1人で座れるようになる。
10. 運動の発達は、生後9か月ごろからつかまり立ちが見られ、その後1人歩きができるようになる。
11. 言語の発達は、一般的に生後0か月ごろから声を出すようになり喃語が始まる。（1～2か月）
12. 言語の発達は、生後1年前後に意味のある言語を言い始めて一語文が始まる。
13. 言語の発達は、生後3年前後で2つの言語を組み合わせた二語文を言い始める。（2歳）
14. ピアジェの発達段階説では、子供の感覚運動から思考・認知の発達を8つの段階にまとめた。（4つ）



介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

15. ピアジェの発達段階説の感覚運動期は、刺激と感覚器官との結びつきを通して動きが形成され、シエマができ外界と関わっていく。
16. ピアジェの発達段階説の前操作期は、ものの見え方の変化に左右される直感的思考の時期である。
17. ピアジェの発達段階説の具体的操作期は、「愛」や「正義」などの目に見えない抽象的な概念の理解ができるようになり、論理的な思考もできるようになる。(形式的操作期)
18. ピアジェの発達段階説の形式的操作期は、思考がまとまった体系に組織化され、具体的な思考ができる。見かけの変化に惑わされない思考ができる。(具体的操作期)
19. 0～2 歳頃は、ピアジェの発達段階説によると前操作期である。(感覚運動期)
20. 2～7 歳頃は、ピアジェの発達段階説によると具体的操作期である。(前操作期)
21. 7～11 歳頃は、ピアジェの発達段階説によると感覚運動期である。(具体的操作期)
22. 11 歳頃～は、ピアジェの発達段階説によると形式的操作期である。
23. エリクソンの発達段階説では、発達概念を障害発達 (ライフサイクル) へと拡張し、心理・社会的側面の発達を 8 つの段階にまとめた。
24. エリクソンの発達段階説は、課題が達成できなかった場合に直面する心理社会的危機を設定した。
25. エリクソンの発達段階説の乳児期 (0～1 歳頃) の発達課題は「信頼」である。
26. エリクソンの発達段階説の乳幼児期前期 (1～3 歳頃) の発達課題は「積極性」である。(自律性)
27. エリクソンの発達段階説の乳幼児期後期 (3～6 歳頃) の発達課題は「自律性」である。(積極性)
28. エリクソンの発達段階説の児童期 (7～11 歳頃) の発達課題は「親密性」である。(勤勉性)
29. エリクソンの発達段階説の青年期 (12～20 歳頃) の発達課題は「同一性」である。
30. エリクソンの発達段階説の成年期初期 (20～30 歳頃) の発達課題は「勤勉性」である。(親密性)



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

31. エリクソンの発達段階説の成年期中期（30～65 歳頃）の発達課題は「生殖性」である。
32. エリクソンの発達段階説の青年期後期（65 歳頃～）の発達課題は「自我統合」である。
33. エリクソンの発達段階説で、自分を取り巻く社会が信頼できることを感じられない場合、心理社会的危機として「恥・疑惑」を得る。（不信）
34. エリクソンの発達段階説で、自発的に行動することを通して、社会に関与していく主体性の感覚を学習することができなかった場合、心理社会的危機として「罪悪感」を得る。
35. エリクソンの発達段階説で、身体的に自己を統合し、「自分とはこういう人間だ」というアイデンティティを確立できない場合、心理社会的危機として「同一性拡散」を得る。
36. エリクソンの発達段階説で、これまでの自分の人生の意味や価値、新たな方向性を見出すことができない場合、心理社会的危機として「停滞」を得る。（絶望）
37. ハヴィーガーストは、7 段階における発達課題をあげている。（6）
38. ハヴィーガーストによる乳幼児期の発達課題として、排便コントロールの習得がある。
39. ハヴィーガーストによる乳幼児期の発達課題として、両親兄弟の人間関係の学習がある。
40. ハヴィーガーストによる乳幼児期の発達課題として、善悪の区別がある。
41. ハヴィーガーストによる児童期の発達課題として、読み・書き・計算の基礎的学力の習得と発達がある。
42. ハヴィーガーストによる児童期の発達課題として、良心・道徳・価値観の適応的な発達がある。
43. ハヴィーガーストによる児童期の発達課題として、話すことの習得がある。（乳幼児期）
44. ハヴィーガーストによる青年期の発達課題として、家庭生活の出発がある。（壮年期）
45. ハヴィーガーストによる青年期の発達課題として、両親や他の大人からの情緒的独立がある。



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

46. ハヴィーガーストによる青年期の発達課題として、社会的に責任のある行動の遂行がある。
47. ハヴィーガーストによる老年期の発達課題として、経済力の確保と維持がある。(中年期)
48. ハヴィーガーストによる老年期の発達課題として、健康の衰退への適応がある。
49. ハヴィーガーストによる老年期の発達課題として、市民責任の負担がある。(壮年期)
50. ハヴィーガーストによる老年期の発達課題として、死の到来への準備と受容がある。

老年期の発達と成熟

51. 日本の官公庁の統計において、1970年以降から70歳以上を高齢者としている。(65歳)
52. 国際連合の世界保健機関の定義では、70歳以上を高齢者としている。(65歳)
53. 65歳以上の高齢者数を老年人口という。
54. 総人口に占める老年人口の割合を老年人口率という。(高齢化率)
55. 高齢化率5%を超えると高齢化社会と呼ぶ。(7%)
56. 高齢化率14%を超えると高齢社会と呼ぶ。
57. 高齢化率23%を超えると超高齢社会と呼ぶ。(21%)
58. 介護保険の第1号被保険者は40～65歳未満の者である。(2号)
59. 日本における定年制度は、1986年の高年齢者等の雇用の安定等に関する法律の改正によって、定年制を設ける場合は60歳以上とされ、現在は70歳までの継続雇用制度等が義務付けられている。
(65歳まで)
60. 高齢者虐待防止法では、65歳以上を高齢者としている。
61. 高齢者医療確保法による後期高齢者医療制度では、75歳以上の高齢者は後期高齢者、65歳以上75



介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

歳未満の高齢者は前期高齢者に分類される。

62. 道路交通法では、運転免許証の更新を受けようとする75歳以上の者に、認知機能検査が義務付けられている。
63. 老化は、加齢に伴い身体機能や精神機能が低下していく生理的変化である。
64. 受精から死までの全生涯の変化を指す場合を「加齢」と呼ぶ。
65. 成長がピークに達した後の退行期の変化を「老化」と呼ぶ。
66. 生理的老化とは、生活環境や生活様式が良好に維持され、かつ疾病や事故が起こらなくても進むものをいう。
67. 生理的老化には、記憶力の低下がある。
68. 生理的老化には、軽度の動脈硬化がある。
69. 生理的老化の学説にある「機能衰退説」とは、細胞内のDNAが損傷することで老化が生じることである。(エラー破局説)
70. 生理的老化の学説にある「エラー破局説」とは、活性酸素による細胞の損傷で老化が生じることである。(フリーラジカル説)
71. 生理的老化の学説にある「フリーラジカル説」とは、加齢によって臓器や器官の機能が低下することで老化が生じることである。(機能衰退説)
72. 生理的老化の学説にある「老化プログラム説」とは、人の細胞分裂の回数があらかじめ決まっていることで老化が生じることである。
73. 生理的老化の学説にある「消耗説」とは、使用と消耗の結果、臓器、器官、細胞などが萎縮・縮小することで、または消耗を補う再生機能が追いつかなくなることで老化が生じる。
74. 病的老化には、高血圧症がある。



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

75. 病的老化には、生理機能の低下がある。(老年期に多い疾患によって老化が進むもの)
76. 病的老化には、血管性認知症がある。
77. 年齢を理由としたステレオタイプに基づく態度や行動をとることを、エイジズムと呼ぶ。
78. 老性自覚とは、加齢による心身の変化に対する客観的な自覚のことをいう。(主観的)
79. 老性自覚は、外的要因として定年退職によってもたらされる。
80. 老性自覚は、外的要因として精神機能の衰えによってもたらされる。(内的要因)
81. 高齢者の喪失体験として、収入の喪失がある。
82. 高齢者の喪失体験として、配偶者の死別がある。
83. 高齢者の喪失体験として、子供の自立がある。
84. 高齢者の喪失体験として、病気がある。
85. 高齢者の社会的活動性と人生の満足度の関係について、社会的な活動の減少は社会的環境によって引き起こされると考える「離脱理論」がある。(活動理論)
86. 高齢者の社会活動性と人生の満足度の関係について、自らの老化に応じて社会的活動を縮小することは、自らの選択であり、ごく自然なことと考える「活動理論」がある。(離脱理論)
87. 社会情動的選択理論とは、中年期以降の社会的接触は減少するものもあるが、肯定的な感情経験を起こしやすい接触が選択され、否定的な感情を伴う接触は避けられると個人差による選択性があるという考え方である。
88. 老化にうまく適応した幸せな生き方を、サクセスフル・エイジングと呼ぶ。
89. サクセスフル・エイジングは、客観的幸福感が指標となる。(主観的)
90. アンチエイジングとは、老化の原因を抑制することで健康寿命を目指そうとする考え方である。



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

91. プロダクティブ・エイジングとは、高齢者であっても生産的、創造的な生き方をすべきであるという考え方である。

92. プロダクティブ・エイジングには、セルフケアが含まれる。

老化に伴うこころとからだの変化と日常生活

93. 老化による身体的機能の変化は、形態的变化（見た目の変化）と機能的変化（生理的機能の変化）の複合といえる。

94. 生理的機能の減退が有病率や受療率に大きく関連している。

95. 加齢により、肺活量は低下する。

96. 加齢により、換気量は増加する。（低下）

97. 加齢により、咳反射は増加する。（低下）

98. 老化により、唾液や胃酸の分泌量は増加する。（低下）

99. 老化により、栄養素の消化吸収は低下する。

100. 加齢により、膵臓のインスリン分泌作用の低下が認められ、糖代謝能力が増加する。（低下）

101. 加齢により、腎臓での体内の老廃物を濾過する機能が低下する。

102. 加齢に伴い、薬の代謝・排泄能力が低下する。

103. 加齢に伴い、薬の作用・副作用が増大する。

104. 加齢に伴い、複数の薬剤間の相互作用が起こりやすい。

105. 老化による排泄機能の低下は、排泄動作能力の低下が現れる。

106. 老化による排泄機能の低下は、腹圧の上昇による尿の漏れとなって現れる。



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

- 107.加齢でも、関節可動域は変化しない。(する)
- 108.加齢に伴い、骨筋組織の脆弱化が現れる。
- 109.高齢者の場合、筋力の低下は下肢よりも上肢の方が顕著である。(上肢よりも下肢)
- 110.平衡機能の老化はバランスは失いわず、転倒などの事故につながることはない。(ある)
- 111.関節の老化は、軟骨の変化として見られる。
- 112.骨の老化によって骨密度が低下し、折れやすくなる。
- 113.老化に伴う循環器系の変化として、動脈硬化、高血圧、不整脈の増加が見られる。
- 114.高齢者は貧血になりにくい。(なりやすい)
- 115.加齢に伴い、皮膚の水分保持能力や皮脂分泌機能が低下する。
- 116.感覚の加齢変化は個人差がある。
- 117.加齢に伴い、視野は広がる。(狭くなる)
- 118.加齢に伴い、暗順応は低下するが、明順応は変化しない。(ともに低下する)
- 119.加齢に伴い、暖色系統の色が識別しにくい。(寒色系統)
- 120.加齢に伴い、聴覚は低音域から感度が低下する。(高音域)
- 121.加齢に伴い、音の識別力が低下する。
- 122.加齢に伴い、嗅感覚が維持する。(低下する)
- 123.加齢に伴い、味覚のうち甘味と塩味の感受性が低下する。(甘味、塩味、酸味、苦味、旨味すべて低下する)



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座 ～発達と老化の理解～

124. 加齢に伴い、痛覚が低下する。
125. 記憶における最初の段階は、短期記憶である。(感覚記憶)
126. 短期記憶の保持時間は1～2秒程度である。(15～20秒)
127. 感覚記憶が反復することで長期記憶に転送される。(短期記憶が反復する)
128. 視力や聴力が低下すると、感覚記憶が低下する。
129. 短期記憶は加齢の影響を受けない。(受けないが、短期記憶に分類される作業記憶は影響を受ける)
130. 短期記憶に分類される作業記憶は加齢の影響を受ける。
131. 意味記憶は、短期記憶に含まれる。(長期記憶に分類)
132. 手続き記憶は、長期記憶に含まれる。
133. エピソード記憶は、長期記憶に含まれる。
134. 意味記憶と手続き記憶は加齢の影響を受けにくい、エピソード記憶は加齢による影響を受ける。
135. 新しい知識に対する反応の速さや正確さは流動性知能である。
136. 社会性を帯びた知識は結晶性知能である。
137. 流動性知能は、生まれつきの能力と強く関係している。
138. 結晶性知能は、学校教育や社会経験と深く結びついて育っていく。
139. 流動性知能は、言語性検査で測定される。(動作性検査)
140. 結晶性知能は、動作性検査で測定される。(言語性検査)



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

141. 結晶性知能は、加齢とともに低下する。(流動性知能)
142. いったん形成されたパーソナリティの基本的部分は、加齢のみが原因で大きく変わることはない。
143. ライチャードの5つの人格特性によると、円熟型とは、責任から解放され楽に暮らそうとする。
(安楽椅子型)
144. ライチャードの5つの人格特性によると、安楽椅子型(ロッキングチェア型)とは、毎日を建設的に暮らそうと努力をしている。(円熟型)
145. ライチャードの5つの人格特性によると、防衛型(装甲型)とは、仕事への責任感が強く、仕事をやり遂げる努力をする。
146. ライチャードの5つの人格特性によると、外罰型(憤慨型)とは、自分の過去や老化を受け入れることができない。
147. ライチャードの5つの人格特性によると、内罰型(自責型)とは、死を恐れていない。
148. ライチャードの5つの人格特性によると、社会に適応的なのは円熟型と安楽椅子型である。(＋防衛型)
149. 高齢者のパーソナリティに影響を与えるものとして、アルツハイマー型認知症がある。
150. 老年期うつ病の特徴として、環境の変化があげられる。
151. 老年期うつ病の特徴として、青年期のうつ病に比べて、慢性化しやすく、再発しやすい。
152. 老年期うつ病の特徴として、若年者と比べ抑うつ気分が重い。(軽い)
153. 老年期うつ病の特徴として、身体的な症状の訴えが強く、うつ状態が見えにくい。
154. 老年期うつ病では、脳の疾患が原因で生じるものも多い。
155. 老年期うつ病では、頭重感や腰痛、肩こりなどの症状がある。



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

156. うつ状態の高齢者への対応として、励ましの言葉を積極的に使う。(使わない)
157. うつ状態の高齢者は日内変動があり、症状が午前中に軽いが午後になると悪くなる。(午前中は重く、午後は軽くなる)
158. うつ状態の高齢者は、希死念慮が見られるため1人にしておく。(一人にしてはいけない)
159. 高齢者の自殺の原因として、健康の問題がある。
160. 高齢者の自殺の原因として、経済・生活の問題がある。
161. 高齢者の自殺の原因として、家庭問題がある。
162. 高齢者の場合、うつ病が認知症の危険因子になる。
163. 配偶者との死別は、残された高齢者に大きな影響を与える。
164. 死別後は、悲嘆－喪失－回復のプロセスをとる。(喪失－悲嘆－回復)
165. 死別後は、十分に悲しむことが悲嘆を乗り越えるために有効である。

高齢者と健康

166. 高齢者は、単数疾患が多い。(複数疾患)
167. 高齢者は疾患にかかると、症状は定期的で、現れ方は教科書通りである。(非定型的である)
168. 高齢者は疾患にかかると、症状は長引き、慢性化することが多い。
169. 高齢者は疾患にかかると、寝たきり状態につながる人が多い。
170. 高齢者の身体機能は個別性が高いが、各種の検査成績の個人差は小さい。(大きい)
171. 高齢者は身体疾患にうつ症状等の精神・神経症状が伴ったり、途中から加わったりすることが多い。



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

172. 高齢者は薬剤の反応性が若年者と異なり、薬剤の効果が弱く出ることがあり、副作用が出にくい。
(出やすい)

173. 高齢者は疾患の予後が、医学・生物学的な面とともに、環境・社会的な面によって支配されやすい。

腹痛

174. 高齢者の腹痛の原因となるものは、腸閉塞である。

175. 高齢者の腹痛の原因となるものは、胃潰瘍である。

176. 高齢者の腹痛の原因となるものは、十二指腸潰瘍である。(高齢者では頻度が低い)

177. 高齢者の腹痛の原因となるものは、大腸癌である。

178. 腸閉塞の原因には、胆道感染症がある。

179. 腸閉塞の原因には、腹腔内の疾患がある。

180. 腸閉塞の原因には、便秘がある。

181. 腸閉塞の原因には、腹部手術の後の癒着がある。

182. 高齢者では、消化性潰瘍による腹痛はあまり強く現れない。

183. 高齢者では、手術などのストレスによる消化性潰瘍の頻度は低い。(高い)

184. 高齢者では、鎮痛剤による消化性潰瘍の頻度は高い。

185. 高齢者では、消化性潰瘍の症状として突然の吐血がある。

痛み (骨・筋肉・関節)

186. 高齢者の骨折部位の主たるものには、大腿骨頸部骨折がある。



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

187. 高齢者の骨折部位の主たるものには、脊椎圧迫骨折がある。
188. 大腿骨頸部骨折は、原則として手術することで治療する。
189. 大腿骨頸部骨折は、寝たきりになりやすい骨折である。
190. 脊椎圧迫骨折は、転倒した時に起こりやすい。
191. 脊椎圧迫骨折は、胸部の激痛により立ち上がれないことがある。(腰部)
192. 橈骨遠位端骨折は、寝たきりになりやすい骨折である。(歩けるので寝たきりになりにくい)
193. 橈骨遠位端骨折は、ギプス固定で治療する。
194. 上腕骨近位端骨折は、手をついて転倒した時に起こる。(肩)
195. 上腕骨近位端骨折は、高齢者の場合、手術をすることを原則とする。(手術をしない)
196. 慢性疼痛は、高齢者の場合、主に関節か骨の疼痛が原因となる。
197. 慢性疼痛の原因となる疾患に、関節リウマチがある。
198. 慢性疼痛の原因となる疾患に、骨折がある。(急性疼痛)
199. 変形性関節症は、無痛性の疾患である。(有痛性)
200. 変形性膝関節症は、中年期以降の男性に多い。(女性)
201. 変形性膝関節症は、X脚変形を起こしやすい。(O脚)
202. 変形性膝関節症は、膝の内側に痛みを生じることが多い。
203. 変形性膝関節症は、膝の負担を軽減するために正座を避ける。
204. 変形性膝関節症は、膝の負担を軽減するために肥満を避ける。



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

- 205.変形性膝関節症は、膝の負担を軽減するために車イスでの移動を促す。(杖歩行)
- 206.変形性膝関節症は、膝の負担を軽減するために膝を温める。
- 207.関節リウマチは、原因不明の疾患である。
- 208.関節リウマチは、下肢の関節に痛みが現れるのが特徴である。(手足の小さい関節から左右対称に
はじまる)
- 209.関節リウマチは、多発性の関節の痛みを起こす。
- 210.関節リウマチは、夕方に関節のこわばりが強く現れる。(朝のこわばり)
- 211.関節リウマチのこわばりは季節や天候により左右される。
- 212.関節リウマチは、男性に多く発症する。(女性)
- 213.関節リウマチがある人の生活上の留意点として、関節を冷やす。(温める)
- 214.関節リウマチがある人の生活上の留意点として、補高便座を用いると楽に移動ができる。
- 215.関節リウマチがある人の生活上の留意点として、自助具の使用を考慮する。
- 216.骨粗鬆症は、骨密度が増加した状態である。(低下)
- 217.原発性骨粗鬆症の原因として、カルシウム不足がある。
- 218.原発性骨粗鬆症の原因として、I型糖尿病がある。(続発性骨粗鬆症)
- 219.原発性骨粗鬆症の原因として、バセドー病がある。(続発性骨粗鬆症)
- 220.続発性骨粗鬆症の原因として、日光浴不足がある。(原発性骨粗鬆症)
- 221.続発性骨粗鬆症の原因として、ビタミンD不足がある。(原発性骨粗鬆症)



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座 ～発達と老化の理解～

222. 続発性骨粗鬆症の原因として、エストロゲン低下がある。(原発性骨粗鬆症)
223. 続発性骨粗鬆症の原因として、副甲状腺機能亢進症がある。
224. 腰部脊柱管狭窄症は、排尿・排便障害が起こることもある。
225. 腰部脊柱管狭窄症は、上肢の麻痺が起こることもある。(下肢)
226. 腰部脊柱管狭窄症は、間欠性跛行が特徴的である。
227. 腰部脊柱管狭窄症がある人の生活上の留意点として、腰回りの筋肉をきたる。
228. 腰部脊柱管狭窄症がある人の生活上の留意点として、杖の使用がある。
229. 腰部脊柱管狭窄症がある人の生活上の留意点として、手押し車や自転車の利用がある。
230. 変形性脊椎症の多くは頸椎の頻度が多い。(①腰椎②頸椎)
231. 変形性脊椎症がある人の生活上の留意点として、ゆっくりとして動作をおこなう。
232. 変形性脊椎症がある人の生活上の留意点として、動いた後にストレッチングを十分におこなう。
(動く前)
- めまい
233. メニエール病は、回転性めまいの症状がある。
234. メニエール病は、高齢者に多い。(頻度が低い)
235. 良性発作性頭位めまい症(良性発作性頭位眩暈症)は、浮遊生めまいの症状がある。(回転性めまい)
236. 脳梗塞の発作直後には、浮遊生めまいが出現することもある。
237. 脱水により、めまいは起こる。



介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

238. 降圧剤の過量投与による高血圧は、立ちくらみや失神を伴うめまいにつながる。(低血圧や不整脈)

239. 排泄後に伴う一過性の低血圧は、失神を起こし転倒につながる。

240. 低血圧によるめまいは、耳鳴りや頭痛の症状は認めにくい。

241. 不整脈によるめまいは、耳鳴りや頭痛の症状は現れやすい。(現れにくい)

体重減少・食欲不振

242. 高齢期における食欲不振の原因として、家庭環境の変化がある。

243. 浮腫の原因として、低栄養がある。

244. 体重が1ヶ月で数kg以上も減少した場合、前期高齢者であればうつ病の可能性はある。(後期高齢者)

245. 体重が1ヶ月で数kg以上も減少した場合、後期高齢者であれば悪性腫瘍の可能性はある。(前期高齢者)

246. 体重が1ヶ月で数kg以上も減少した場合、後期高齢者であれば慢性疾患の悪化の可能性はある。

247. 胆嚢がんは、食欲不振や体重減少が現れる。

248. 大腸がんは、食欲不振や体重減少が現れる。

249. 胃潰瘍は、食欲不振や体重減少とともに、突然の嘔吐とショック状態になる場合もある。

しびれ

250. 頸椎症は、両足からのしびれから始まり、進行すると足を動かすことも影響する。(両手から始まり、進行すると手を動かすことも影響する)

251. 後縦靭帯骨化症は、両手からのしびれから始まり、進行すると手を動かすことも影響する。



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

252. 後縦靭帯骨化症は、指定難病の指定されている。

253. 脊柱管狭窄症では、短距離歩行で下肢にしびれが生じることがある。

浮腫

254. 浮腫の原因疾患として、心不全がある。

255. 浮腫の原因疾患として、ネフローゼ症候群がある。

256. 浮腫の原因疾患として、腎不全がある。

257. 浮腫の原因疾患として、肝硬変がある。

258. 甲状腺機能亢進症では、粘液水腫と呼ばれる浮腫が現れる。(甲状腺機能低下症)

咳・痰

259. 慢性閉塞性肺疾患は、慢性気管支炎と肺気腫の総称である。

260. 感染性の肺炎として、誤嚥性肺炎がある。(感染ではない)

261. ACE 阻害薬と呼ばれる降圧剤によって、痰を伴わない空咳が服用開始後数ヶ月以内に現れる。

262. 胃食道逆流症では、胸やけと同時に咳が出ることが多い。

息切れ・息苦しさ

263. 息切れ・息苦しさは、肺と消化器の両方の働きに関連した症状である。(肺と心臓)

264. ガス交換ができない状態を心不全という。(呼吸不全)

掻痒感

265. 皮膚掻痒症は、発疹などはなく、かゆみだけが強い皮膚疾患である。

266. 皮脂欠乏性皮膚炎は、女性に多い。(男性)



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

- 267.皮膚欠乏生皮膚炎は、爪を短く切り、掻いてかく悪化を防ぐ。
- 268.脂漏生皮膚炎は、頭皮などにフケやかサカサを伴った紅斑が生じる。
- 269.脂漏生皮膚炎は、石鹼で皮脂を落とし清潔を保つ。
- 270.接触生皮膚炎は、点眼薬が原因の1つである。
- 271.接触生皮膚炎は、真菌が原因の1つである。
- 272.白癬は、頭皮にできると「しらくも」と呼ばれる。
- 273.白癬は、からだにできると「タムシ」と呼ばれる。
- 274.足白癬では、足を乾燥させるようにする。
- 275.カンジタ症は、握ったままの手掌などで生じる。
- 276.カンジタ症の症状は、湿潤した落屑を伴う発赤、びらんなどがある。
- 277.疥癬の病原体は、ヒゼンダニである。
- 278.疥癬は、指間や腋窩などに小丘疹が見られる。
- 279.疥癬は、集団感染になりやすい。
- 280.腎不全がある人は掻痒感を訴えやすい。
- 281.肝疾患がある人は掻痒感を訴えやすい。
- 282.胆道疾患がある人は掻痒感を訴えやすい。
- 283.糖尿病がある人は掻痒感を訴えやすい。
- 284.薬剤によって掻痒感を訴える人もいる。



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

不眠（睡眠障害）

285. 高齢前期では、睡眠リズムの変化などが不眠の背景にあると考えられる。（後期）

286. 高齢後期では、配偶者の死をきっかけに不眠になることがある。（前期）

便秘

287. 腸の病気によるものを、器質性便秘という。

288. 高齢者の便秘の原因は、器質性便秘が大半を占める。（病気よりもストレスなどの機能性便秘が多い）

下痢

289. ノロウイルスは、ウイルスによる感染力が弱いため、自然に軽快する。（感染力が高く、医療機関へ受診する）

290. ロタウイルスは、ウイルスによる感染力が弱いため、自然に軽快する。（感染力が高く、医療機関へ受診する）

291. 薬剤耐性菌の代表的なものとして、MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）がある。

292. 感染症以外による下痢症として、便秘によるものがある。

誤嚥

293. 嚥下障害の原因として、加齢による咀嚼や嚥下に必要な筋力の衰えがある。

294. パーキンソン病は誤嚥しにくい。（筋強剛があるため）

295. 誤嚥性肺炎の予防として、食事形態を変えることである。

出血

296. 口から出る出血を下血という。（吐血）

297. 咯血の出血量が多い。（少ない）



むさし介護アカデミー

介護福祉士国家試験 WEB 対策講座

～発達と老化の理解～

298.血痰は、肺結核を疑う。

299.血痰は、肺がんを疑う。

300.消化器疾患に起因する吐血は、頻度が少ない。(多い)

301.新鮮血を吐くときは、静脈から出血している可能性がある。(動脈)

302.胃からの吐血は、新鮮血である。

303.胃からの下血は、新鮮血である。(タール便)

304.十二指腸からの吐血は、新鮮血である。

305.十二指腸からの下血は、タール便である。

306.結腸からの吐血は、便臭がする。

307.結腸からの下血は、新鮮血である。

熱中症

308.熱中症は、高体温状態となって、多臓器不全におちいる。

309.高齢者は脱水になりやすい。

310.熱中症の予防として、春頃から気温になれることである。

311.熱中症の症状として、腹痛がある。